

行場方面に上陸する場合は主力を以て同方面に出撃することあり

要領
兵團部署
別紙要圖第二の如し

五 新作戦計畫の企圖するところを説明せば左の如し

一 捷號作戰に於ては徹底せる決戦主義なりしも新作戦計畫に於ては戰略持久の思想を基本方針とし若し敵が軍主力の防禦地帯沿岸に上陸する場合は之を海岸地帯に撃滅するの企圖と希望を有せり

二 兵力を占領地域に適合せしむる爲中頭地域を放棄し軍主力を島尻地區に集結せり

三 混成旅團主力を島袋附近の要點に配置し城外支隊的任務を附與せしは北、中飛行場に對する中央部の關心を慰撫せんとする術策にして之を支撐として軍主力が該方面に出撃することあるを作戰方針に記述せるは同一目的に出でしものなり蓋し軍は混成旅團の城外支隊式用法並に此の種軍主力の攻勢は害のみ多くし

て益々極めて渺しと判断しありたればなり

四 北、中飛行場の敵の使用妨害は主として主陣地帯内に在る長射程砲（十五糎加農）の威力に期待せり

五 主陣地帯内海岸地帯に於ける敵撃滅の理論的根據は捷號作戰の場合と同一なり寧ろ新作戦計畫に於ては防禦地域狭少となり砲兵火力及部隊の機動運用著しく簡單容易となりしを以て攻撃成功の算確實化せりと思考せり

六 新作戦計畫策定に際し研究せし主要なる諸案左の如し

第一案

混成旅團は依然伊江島及本部半島に第二十四師團も亦概ね舊配置に在らしめ爾餘の軍主力は沖繩島南半部を撤して國頭郡山嶽地帯に轉移し戰略持久を策す

第二案

實際に採用せし案

第三案

第二案と概ね同一思想なるも軍主力を以て中頭郡地區を占領する案

第四案

捷三號作戰の場合と同一構想を以て中頭島尻兩郡内敵の上陸點隨處に軍主力を機動集中し決戦を求めんとする案

第二案を採用するに至りしは前第五項に記述せる根據に基くの外第一案は軍自体の持久は容易なるも其の持久は戰略的價値に乏しく第三案は重要飛行場を直接確保し得るの利あるも地形薄弱にして戰術上不利、第四案は軍の兵力激減の結果攻撃成功の算尠なりとの判斷に據るものなり又第一、三、四案は現態勢より新態勢に轉移する上に於て既設築城の利用、集積軍需品の輸送等に於て著しく不利なればなり

七各兵團は新作戰計畫に基き十一月末より十二月上旬に亘り新作戰地域に轉移し新たなる築城訓練に著手せり

然れども各兵團部隊が眞剣に築城訓練を開始せるは昭和二十年一

月以後のことに屬す事情斯くなれる理由左の如し

一 精銳なる第九師團其他兵力の抽出轉用に因る志氣の沈滞

二 過去數ヶ月に亘る訓練築城に對する必死の努力が水泡に歸せる

事實

三 築城材料（坑木の所要量は莫大にして一兵團の爲に數萬もを必要とす）

軍需品等の新作戰地域への輸送難

四 新居徑設備（軍に於ては軍紀風紀の維持上住民との混住を嚴禁せり）の爲の努力

八 作戰計畫一部の變更

混成旅團を島袋附近に配置せる軍の眞意は前述の通りなるが軍の主陣地帯を具に巡視し其の正面と兵力の關係を檢討するに未だ正面過廣にして安心を許さず少くも歩兵一大隊の占領正面を二軒程度に緊縮せざるべからず戰術上の要求は嚴肅にして此の偽裝虚飾を許さず茲に於て軍は斷乎たる決心を以て一月中旬混成旅團を主

陣地帯内に撤退せしむると共に北、中飛行場方面に對する軍主力の出撃企圖を完全に放棄せり。混成旅團撤退後に於ける軍主力の兵力部署の概要別紙要圖第三の如し。

九北、中飛行場地區確保に關する論争並に兵力強化問題

軍が新作戦計畫に基き北、中飛行場を主陣地帯外に置き該地區に在りし第二十四師團を島尻方面に移動せしむるや陸海各方面に於て相當の難色あり更に混成旅團を主陣地帯内に撤收し該方面への軍主力出撃の企圖をも放棄するに及び其の空氣愈々悪化し中央部は勿論關係航空部隊も北、中飛行場地區再強化の要求熾烈なり。軍首脳部は他の何人よりも北、中飛行場の戰略戰術上の價値を深く認識しあり此の二大飛行場は一度敵の眞面目なる攻撃を受くるに至れば南西諸島中他の飛行場と同様先ず敵空軍に制壓せられ次で敵艦砲の有効射程下に曝さるべきが故に我が空軍の爲の使用價値は殆皆無に近きこと明瞭にして問題は勉めて永く敵空軍をして

之を利用せしめざるにあり

混成一旅團程度の兵力を廣大にして地形薄弱なる該地區に配置するも從來の戰例に明なる如く其の持久日數は兩三日を出でざるべく可惜其の代償として軍保有戦力の數分一を一舉にして消耗せざるべからず斯かる程度の持久ならば軍は主陣地帯内の長射程砲に依り易々として其の目的を達し得べし益島の用兵的構成を深く慮らず戰術上の基本的原理を逸脱し優先自負の一方的衝動的要求には軍として應じ難きところなり。

眞に北、中飛行場の使用妨害の實效を期せんとせば徹底的に軍の兵力を増加せざるべからず茲に於て軍は聯合艦隊關係現地陸海空軍と相提携し大本營に對し兵力増加に關する意見を具申せり此故か昭和二十年一月二十三日在姫路第八十五師團を沖繩に増遣すべし大本營命令あり一同欣喜せしも同日夕取消電報來著自今第三十二軍には兵力を増加せざるも軍需品は能ふ限り追送すべき中央の方針明瞭となれり。

依つて軍は依然北、中飛行場地區に對する處置は變更せず幾多の經緯を経たる後第十方面軍（大本營）との間に左の如き了解を以て戦闘を開始せり

1. 第十方面軍は台灣教導聯隊を沖繩に急派し第三十二軍は之を以て北、中飛行場を直接防禦す

2. 第三十二軍は小陣地内よりする長射程砲に依り極力長期且有効に北、中飛行場を制壓す

3. 特設第一聯隊（兩飛行場地區に展開しある第十九航空地區司令部飛行場大隊特設警備工兵隊等を以て編成し總員約三千名なり）及第六十二師團の前進部隊たる獨立歩兵第十二大隊は飛行場地區に於て眞面目なる持久戦闘を實行す

4. 挺進斬込部隊を陸海兩方面より常續的に出撃せしめ兩飛行場を擾亂す

1. 兵力の自力増強

第三十二軍には兵力を増強せずとの大本營の方針を承知し且刻々

情勢の緊迫しつ々あるを感知せる軍は一日と雖も爲すところなく安如たるを得ず凡ゆる手段を盡して戦力の自力増強に努力せり第三期作戦準備間に軍の實行したる兵力増強の諸施設の概要左の如し

1. 獨立大隊七ヶ大隊の編成

海上挺進基地大隊は總員約九百名を有し三勤務中隊と一整備中隊より成る兵員の平均年齢は大隊に依り三十二、三才乃至三十五、六才既教育兵頗る多く全員小銃を携行す

大隊の任務は海上挺進戦隊の攻撃資材（主として攻撃用の發動挺及爆薬）の掩護、秘匿、給水等の工事及整備竝に戦隊の宿營給養等を擔任するに在り昭和二十年の初頭に於ては既に以上諸工事は概成しありて斯かる有力なる部隊を單に出撃時の給水の爲に存置するは軍全般の作戦上の要求より見て失當なり依つて各大隊の整備中隊は各戦隊に配屬存置し爾餘は獨立第一乃至第三大隊同第二十六乃至第二十九大隊と改稱し純然たる戦闘任務

に服せしむるに決せり
各獨立大隊は從來の裝備の外輕機、重擲各十數重機數銃を増備せられ平均總員約六百七ヶ大隊合計約四千にして第二十四師、第六十二兩師團長及獨立混成第四十四旅團長の指揮下に分屬し教育訓練の精到を期せり

2. 特設諸部隊の編成

後方諸部隊と雖戰鬪開始後は島嶼守備隊の特性に鑑み其の主力を以て純戰鬪に参加せしむるを有利とす依つて軍は後方諸部隊を戰鬪に便なる如く假編成し之に相當數の自動火器、重擲、小銃、急造爆雷等を増加裝備し左の如く特約部隊を假編成せり

特設第一聯隊

第十九航空地區司令部以下北、中飛行場地區に在りし飛行場大隊二、特設警備工兵隊二、要塞建築勤務中隊一等を基幹として編成す
總員約三千なり

特設第一旅團

長 第四十九兵站地區隊長

特設第二聯隊

兵站諸部隊より成り總員約三千なり

特設第三聯隊

野戰兵器廠を基幹とす總員約二千なり

特設第四聯隊

野戰貨物廠を基幹とす總員約一千五百なり

特設第二旅團

長 第十一船舶團長

特設第五聯隊

各海上挺進戰隊出撃後の殘留人員を以て編成する豫定にして總員約三千五百なり人員の過半數は防衛召集者とす

特設第六聯隊

第七船舶輸送司令部沖繩支部海上輸送大隊滯留機帆船要員

等より成り総員約一千なり

3. 防空諸部隊の地上戦闘参加

軍の築城逐次進捗するに伴ひ且從來の敵の空襲効果にも鑑み戦闘開始後は有力なる防空諸部隊は其の本來の防空任務に使用するよりは寧ろ直接地上戦闘（對戰車、對舟艇、その他砲兵的使用）に参加せしむるを有利と判断し豫め戦闘開始後に於ける防空各部隊の第一線諸兵團への配屬並に配屬後の戦闘任務を豫定し之に基き築城其の他の戦闘準備を實施せしめたり斯くて地上戦闘に参加すべきは防空火器は七五種高射砲約七十門、高射機關銃約百門（海軍所屬の機關砲約十門を含む）なり

4. 防衛召集

特設警備中隊、特設警備工兵隊の要員の外全島民皇土防衛に参加すべき精神に則り昭和二十年一乃至三月の間に於て防衛召集せし人員左の如し本防衛召集に依り沖縄島民中滿十七才より滿四十五才迄の男子は殆全員戦闘に参加することとなれり

海上挺進戦隊の爲の作業要員

各海上基地大隊の主力を戦闘部隊に改編せし補充として在本島

四ヶ戦隊の爲合計約三千

兵站地區隊の爲の作業要員

在慶良間群島各海上基地大隊の主力を戦闘部隊に改編し沖縄本島に轉用せる補充として兵站地區隊長指揮下の水上勤務一中隊と一小隊を之に充當せし爲新に兵站地區隊の作業要員として約二千

一般戦列部隊の戦力前區項以外の各後方部隊の作業力を夫々増強する爲約一萬五千

5. 男女中等學生の軍隊編入

沖縄本島内男子中等學校上級生を以て鐵血義勇隊を編成し之を各戦列部隊に分屬せり一部人員は昭和十九年秋より通信兵要員として教育中にして其の成績良好なり總數約一千五百
沖縄本島内女子中等學校上級生は昭和十九年秋より計畫的に備

生勤務要員として教育中にして總數約六百

七、天 號 作 戦

軍は前述の如く独自の立場を以て第三期作戦準備を計畫準備しつつありしが比島に於ける捷號作戦絶望となれる昭和二十年二月上旬頃以來新情勢に應ずる大本營の作戦計畫漸次明となれり之を天號作戦と稱す天號作戦の一般方針は本土決戦を主眼とし南西諸島台灣、支那本土の中部及南部佛印等に敵の進攻することあるべき場合を想定し之が作戦を策定せるものにして作戦一般の目的は本土決戦を容易ならしむるに在り沖繩に敵の進攻する場合を天號作戦と稱せらる

昭和十九年十一月以來の軍の作戦方針は新に策定せられたる天號作戦の方針に合致せしを以て變改の要を認めず且此の作戦計畫の内容は航空作戦に關する事項が主体にして地上作戦に於ては北、中飛行場地區の防禦が部分的に問題となるに過ぎず
天一號作戦を觀察するに我が陸海の空軍が南西諸島に豫定する集

中兵力は其の主力とも考へられ軍の本質點作戦任務が本土決戦を容易ならしむべき戰略持久なるに似ず強大なるは軍の頗る意を強くするところなり

然も戦闘方式が全部張り付け特攻主義にして成功の確實を期する點に於て益々然り即ち我が沖繩本島の各飛行場のみならずも豫定兵力は約三百機にして軍は之が秘匿格納設備の完成に努力し

三月中旬頃に於ては全機展開可能の状態に在り
以上の如く天號作戦に於ける航空作戦計畫は軍首脳部を感激せしむるものありしも敵の進攻時機を三月下旬乃至四月上旬と判断しつつ航空部隊の展開完了時機が四月末と計畫せられあるは時機を失する虞れ頗る大なり實際に於て軍の憂慮せし通り計畫に基く航空部隊は三月二十六日敵の上陸準備砲爆撃の最中僅かに六機が漸く到着せるのみにして他は沖繩に展開することなく戦闘勃發せり
五、航空作戦準備

八、軍は十月中旬の台湾沖航空戦に於て軍の努力に成れる各飛行場

(主として伊江島及沖繩)に數百機の陸海空軍を展開せしめ且之が出撃準備を援助し優渥なる勅語を賜はりしが爾後昭和十九年十一月より昭和二十年初頭に至る間比島決戦参加のため連日十數機乃至百數十機に及ぶ南下する陸海航空部隊の機動を援助し其の數概ね三千機に達せり

2.比島航空作戰に鑑み我が空軍の戦法が既述の如く張り付け特攻主義を採用するに至るや軍は之に即應する爲既に概ね完成せる南西諸島各飛行場の附屬施設特に飛行機の秘匿、遮蔽、掩護の諸設備擴張に努力せり又此の航空戦法に關聯し主陣地帯内に於て最後迄使用し得る飛行場を保持するの要ありと判断し首里北側に秘密飛行場の建設を始めたるも作業半ばにして戦鬪勃發し其の目的を達し得ざりき

3.沖繩南飛行場は昭和十九年七月一時之が設定中止を命ぜられ其の後其の儘なりしが昭和二十年初頭より又中央の命に依り作業を再開せり

因みに本飛行場は首里飛行場と秘密誘導路を以て連絡し相互百機一体の飛行場たらしむる計畫なりき

4.天號作戰計畫に基く航空部隊の沖繩展開が機に合せざるを看取せる軍は三月に入るや沖繩本島に於ける全飛行場を即刻徹底的に破壊するを有利なる旨意見を具申せり

蓋し伊江島の各見飛行場、沖繩の北、中飛行場等は今や概ね友軍の使用する見込なく我に價値なき多數の飛行場を完全に存置して敵手に委ぬるが如きは愚の骨頂なり各飛行場保持の爲一聯隊一旅團の兵力を配置するも其の持久日數は數日を出でざるべく空しく數千の將兵を犠牲とするのみなり今斷乎たる決意を以て徹底的に破壊し置かば一兵も損することなくして數倍の日數が持久し得べく天下之より明白にして賢明なる策なしとの理由に依るものなり

軍の意見具申は直ちに認められ先ず伊江島飛行場は破壊を許可せられたり